

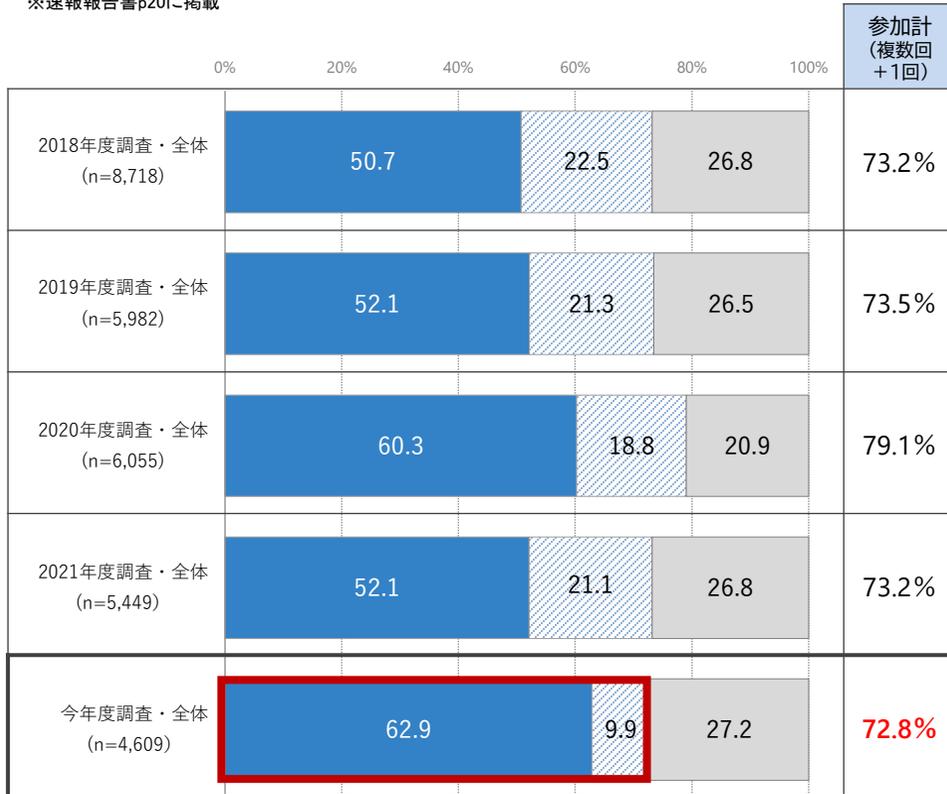
インターンシップ等への参加状況等

- ・ インターンシップ等※に参加した学生は7割超。うち「複数回参加」の回答が62.9%へと高まっている。
- ・ 参加したインターンシップ等のうち最長の日数として、「1日」又は「半日」と回答した割合は約4割。
- ・ 半日間又は1日間のインターンシップ等の参加回数が占める割合は83.5%へと上昇。

※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

インターンシップ等参加経験の有無

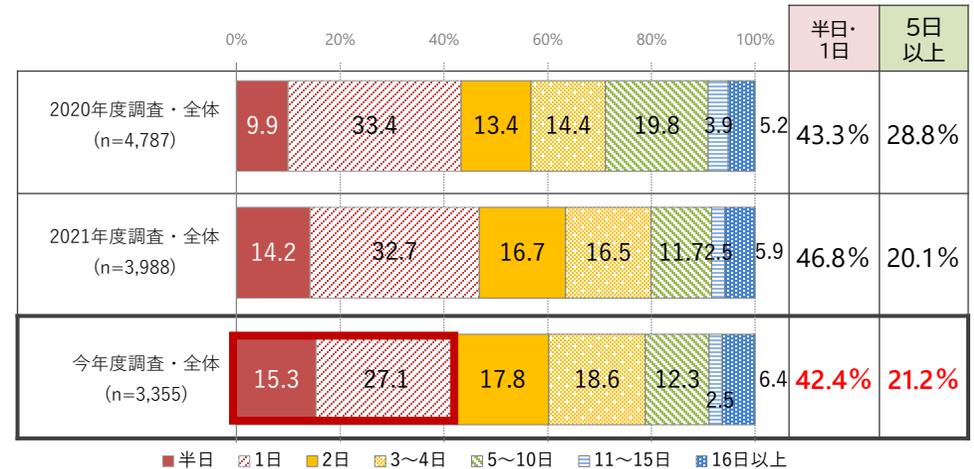
※速報報告書p20に掲載



■ 複数回参加したことがある □ 参加したことがある (1回) ▨ 参加したことがない

インターンシップ等に参加したうちの最長日数

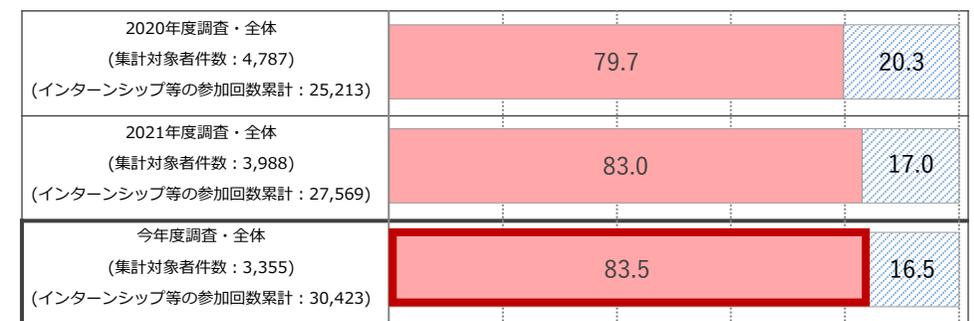
※速報報告書p22に掲載



■ 半日 □ 1日 ■ 2日 ■ 3~4日 ■ 5~10日 ■ 11~15日 ■ 16日以上

半日間又は1日間のインターンシップ等の参加状況

※速報報告書p23に掲載



■ 半日間・1日間

▨ 2日間以上

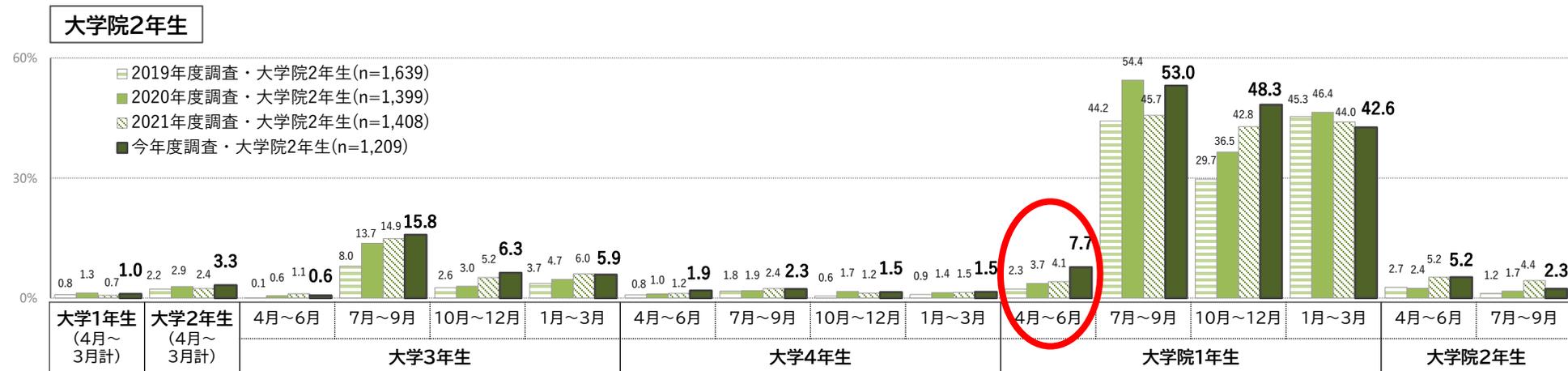
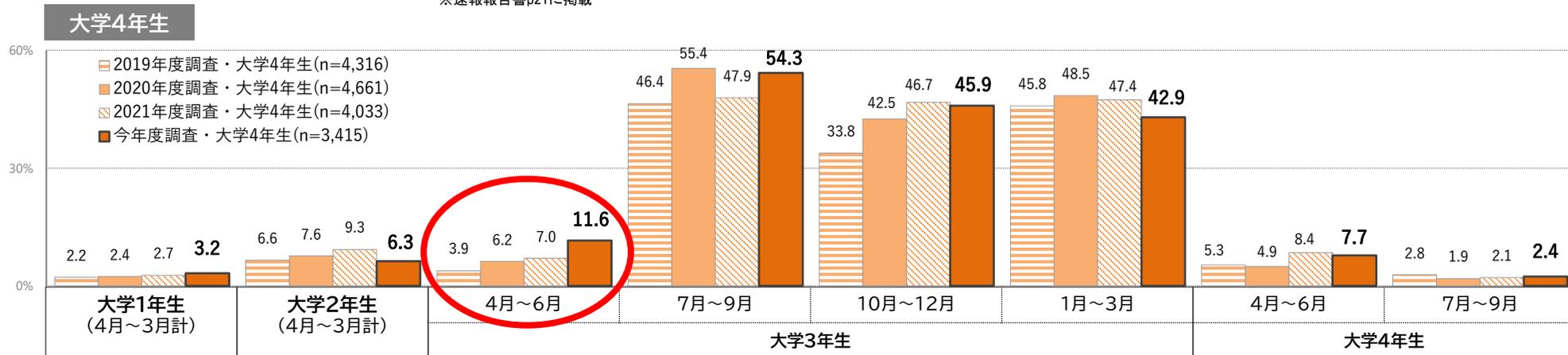
インターンシップ等への参加時期

- インターンシップ等参加の時期は、大学4年生では、大学3年生の7月から本格化。大学院2年生では、大学院1年生の7月から本格化。ただしそれぞれ4～6月から上昇。
- 2021年度調査と比べ、今年度調査では大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」の割合が上昇し、「1月～3月」の割合が低下している。

※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

インターンシップ等への参加時期

※速報報告書p21に掲載



インターンシップ等に参加した効果

- インターンシップ等に参加した「良い影響」として、「会社の雰囲気を理解することができた」「自分の将来設計（キャリアプラン）を考えるのに役だった」等で「半日間または1日間」と比べ「2日間以上」の方が、割合が高い。
- 「悪い影響」として、「学業に支障が生じた」「部活動・サークル活動に支障が生じた」の割合が「2日間以上」の方が高い。「その他」として、2日間以上のインターンシップ等では「参加した企業から内々定を受けることにつながった」とする割合が比較的高い。

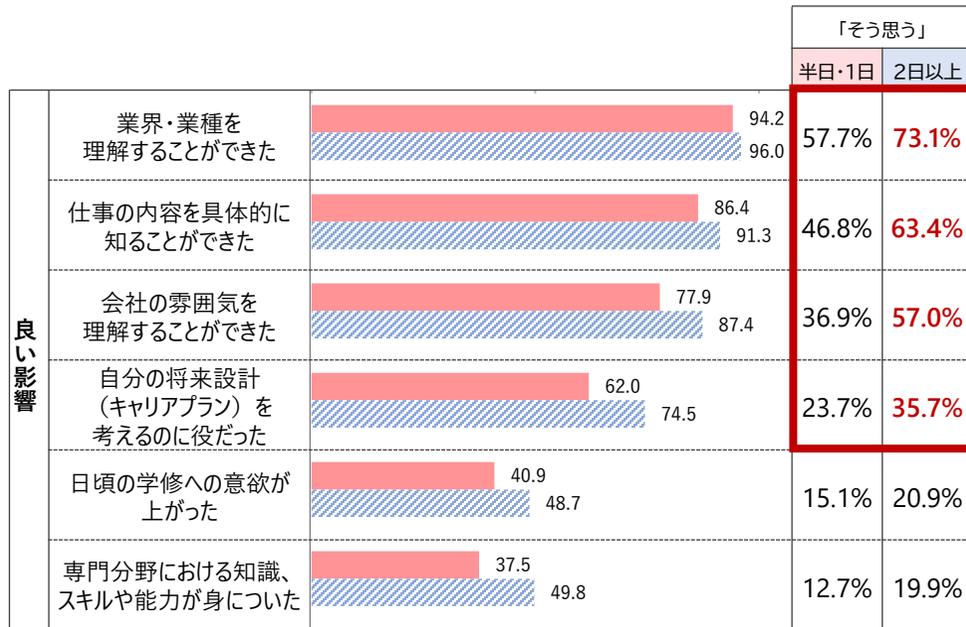
※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

インターンシップ等参加の効果

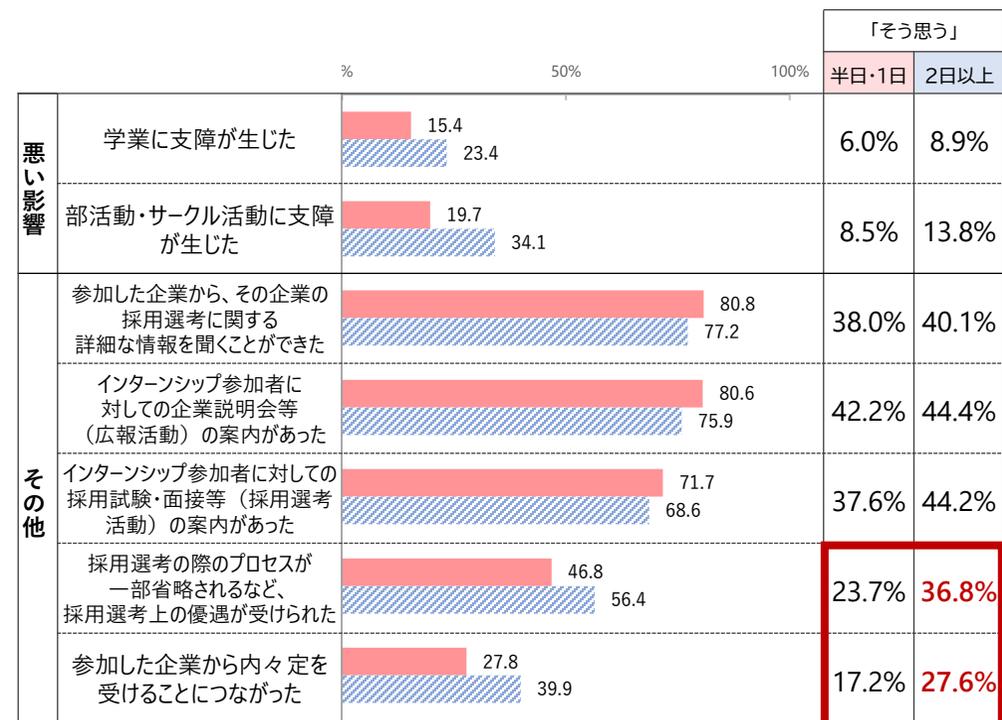
※速報報告書p30,31に掲載

※グラフは「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

※表は「そう思う」の数値（10%以上差があるものを赤字・赤枠で表記）



■ 半日間または1日間等のインターンシップ (n=1,423) ■ 2日間以上のインターンシップ等(n=1,933)



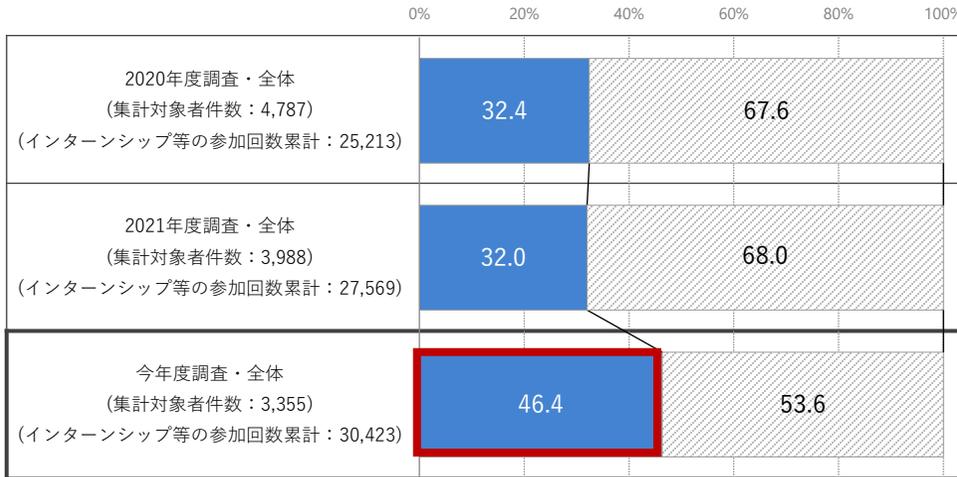
インターンシップ等への参加状況等

- インターンシップ等が採用のための実質的な選考を含んでいた割合は昨年の32.0%から46.4%へと目立って増加。
- インターンシップ等参加後に、参加者を対象としたアプローチを受けたかについて、「採用説明会・セミナーに参加した（2022年2月以前に開催）」が56.1%、「インターンシップ参加者を対象とした早期選考の案内」が54.3%、「エントリーの案内」が42.6%。

※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

参加したインターンシップ等における実質的な選考実施の有無

※速報報告書p27に掲載

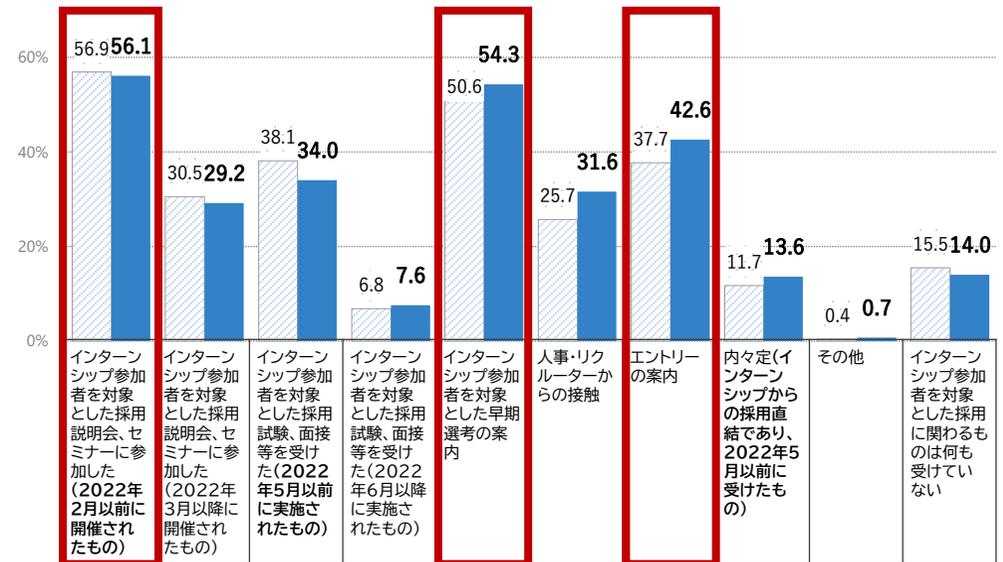


■ 採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた

□ 採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいなかった（又は含んでいるかわからなかった）

インターンシップ等参加後に、参加者を対象としたアプローチを受けたか

※速報報告書p28に掲載



□ 2021年度調査・全体(n=3,988)

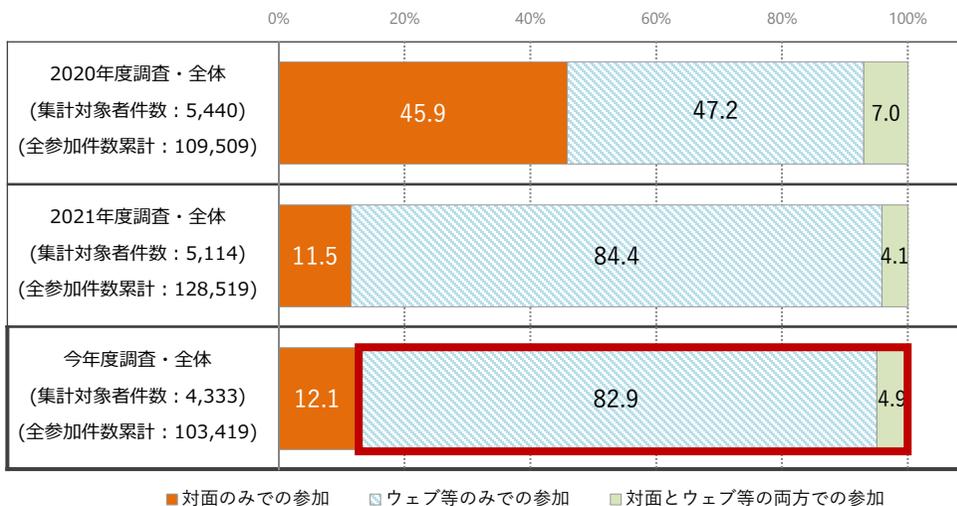
■ 今年度調査・全体(n=3,355)

企業説明会等や採用面接への参加方法

- 企業説明会やセミナー等において、ウェブ等の方法で参加した割合は約 9 割であり、昨年度と同様の傾向。
- 採用面接において、ウェブ等の方法で参加した割合は約 9 割であり、昨年度と同様。一方で「対面とウェブ等の両方での参加」の割合が増えている。

企業説明会やセミナー等への参加方法

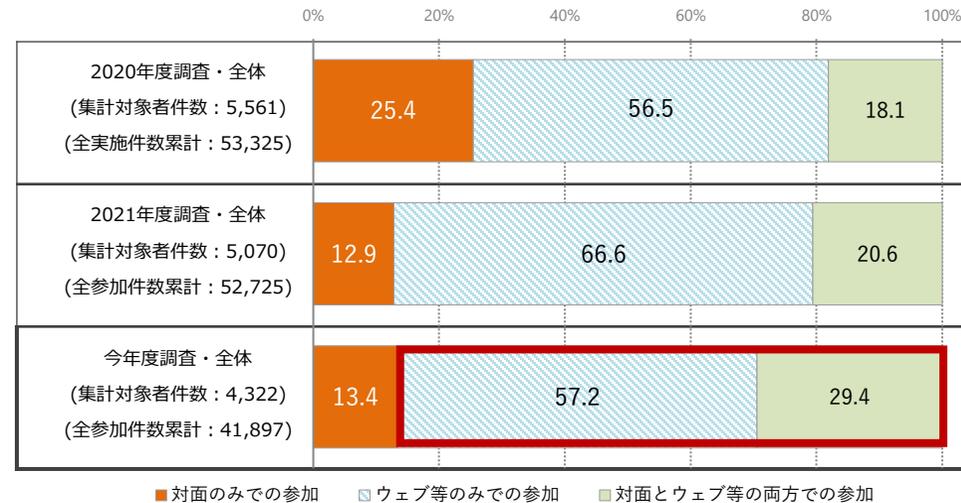
※速報報告書p87に掲載



「ウェブ等のみでの参加」,「対面とウェブ等の両方での参加」は87.8%

採用面接の参加方法

※速報報告書p88に掲載



「ウェブ等のみでの参加」,「対面とウェブ等の両方での参加」は86.6%

※全参加件数は、各方法で実施したと回答した件数を合計した数。

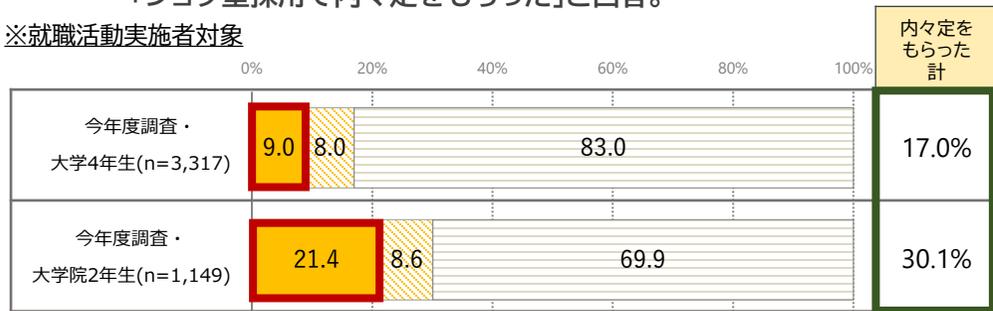
ジョブ型採用について

- 就職活動実施者におけるジョブ型採用での内々定の状況について、大学4年生は17.0%が、大学院2年生では30.1%が、「ジョブ型採用で内々定をもらった」と回答（就職活動実施者全体の18.5%、827人）。
- 「自身の専門性（学部・院での学業や資格等）と合致する」と回答した割合は、大学院2年生で21.4%と大学4年生と比較して特に高く、また就職活動実施者における文系・理系別では理系で21.4%と、文系と比較して特に高い。
- ジョブ型採用で内々定を受けた職種について、大学4年生と大学院2年生を比較すると、「研究・設計開発」は大学4年生で5%前後に対し、大学院2年生では約4割となっている。
- 一方、「営業」「経理財務」「人事」「一般事務」については、大学院2年生に比べて、大学4年生の割合が比較的高い。

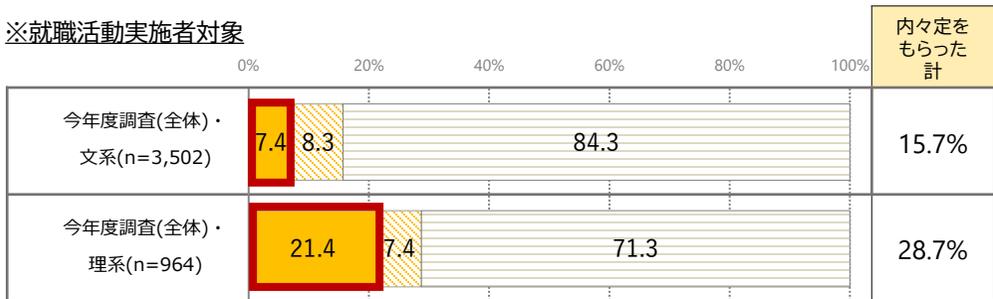
ジョブ型採用での内々定の状況

※就職活動実施者全体(n=4,466)では、**18.5%(827人)**が「ジョブ型採用で内々定をもらった」と回答。

※就職活動実施者対象



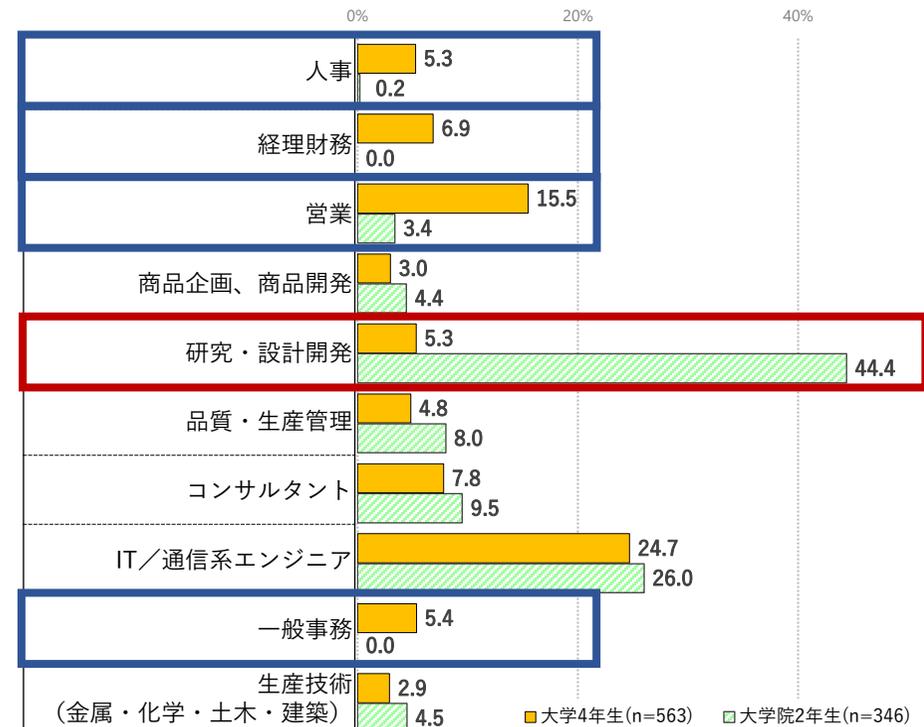
※就職活動実施者対象



- ジョブ型採用で内々定をもらい、自身の専門性（学部・院での学業や資格等）と合致する
- ▨ ジョブ型採用で内々定をもらったが、自身の専門性（学部・院での学業や資格等）と合致していない
- ジョブ型採用で内々定をもらっていない

ジョブ型採用での内々定の職種

※ジョブ型採用で内々定をもらった人対象



※大学4年生・大学院2年生ともに4%未満の職種、「その他分類されない専門職種」については割愛

※「特定の職務等を限定した採用(ジョブ型採用)」については、設問に入る前に「特定の職務等に限定した採用。入社後の職務内容を確定させた採用方式のこととする。または、入社後に従事する仕事が決まっており、その仕事を遂行できる人材を採用するため、応募者の専門能力を重視する。」と説明した。